

カナダ研修のプログラムが本格的に始まる月曜日、朝から雨の降る冬のバンクーバーらしい肌寒い日となりました。ほぼ時間通りに、ホストファミリーがスタディーセンターに車で生徒を送ってきて、英語クラスの授業がスタートします。クリスティー先生の指導の下、簡単なクイズやペアアクティビティーでウォームアップをしながら、ホームステイのルールやカナダのお金、消費税など、生活上必要な情報を取り入れたイントロダクション・オリエンテーションを前半に行いました。後半は SDGs の 17 のテーマに関して、そして、17 のゴールのうちの一つである、Zero Hunger (= 飢餓をなくす) の具体的な活動として、フードバンクに関して取り上げました。午後、市内のフードバンクを訪問する前に、寄付をする食品をスーパーで購入するにあたり、どのようなものが適しているかといったことも学びました。

途中の昼食休憩時には、皆ホストファミリー宅からお弁当を持ってきており、「サンドウィッチと果物」、という家庭が多かったです。

昼食後は、アメリカ映画でよく見る黄色いスクールバスに乗って街へ出かけました。まずは、Superstore という大きなスーパーマーケットに行き、授業で学んだ寄付に適する食品を売り場から探し、5 ドル分程度それぞれの生徒が考えて購入しました。誰もが食べられ、健康によく、栄養価があり、長期保存ができるものということを念頭に置いて、缶詰の野菜や豆、乾燥パスタ等を選んでいました。買った食品を手には、アボッツフォード・フードバンクに行きました。フードバンクでは、職員のニック氏に施設を見学させていただきながら、施設の概要やスタッフがどのような仕事をしているか、貧困者にどのようなサポートをしているかといった話を聞きました。このフードバンクの特徴として、本格的な歯科医の設備があり、食事だけでなく歯科治療のサービスも無償で提供している事。公的資金ではなく、すべて個人や企業からの寄付で運営されていること、月間 2 1 0 0 家庭に食品等の援助を行い、週に 1 0 0 名以上の運営サポートボランティアが携わっていること等を解説いただき、食事の問題だけでなく、貧困から生じる様々な社会問題を解決する役割を担っていることが理解できました。日本ではまだ馴染みの薄いフードバンクの取り組みですが、近年関心が高まっているフードロスの問題と併せて、帰国後、具体的に何ができるかを考えるきっかけになったのではないかと思います。

以上、カナダ研修 3 日目の報告となります。



スタディーセンターの教室にて、午前中の授業の風景



スーパーマーケットにて、フードバンクで寄付をする食品を探し中



フードバンク内の仕分け作業場所



フードバンク内の歯科治療室